

新刊 Book Reviews

□コロナ・ブックス編集部（編）：牧野富太郎
植物博士の人生図鑑。B5変。128 pp. 2017. 平凡社。
¥1600+税。ISBN 978-4-582-63510-2 C0023.

かねてから牧野富太郎の業績を植物分類学史の
うでで科学的に評価してほしいと思っている。本
書を手にそう期待してページをめくった。本書に
は「まえがき」も「あとがき」もない。本書出版
の意味が分からなかったためである。本書には、
牧野の写真、植物図、原稿、蔵書などいろいろと
豊富に集められており、それらが「牧野式植物
図」、「牧野式評伝」、「牧野の実り」などの項目に
分類されて紹介されている。図も写真もよい。牧
野語録も豊富に集められている。図や写真にはそ
れぞれ牧野の著作から抜き出した短文が付されて
おり、「私の腕の記念碑である」とか「芸が身を
助ける不仕合わせ」とか興味をそそる表題がつけ
られている（表題のないものもある）。前の短文
は「牧野富太郎自叙伝 植物学雑誌の創刊」中に
あり、後は「植物記 私と大学」中にあるという
が、表題は編集者がつけたもののようである。牧
野の植物画について大場秀章氏の、晩年の牧野に
ついて田中純子氏の2編の随筆を含む。巻末には
牧野富太郎略年譜などがある。

「私のハアバリウム」Herbarium of Makino と題
されている部分の内容 (pp. 066-067) はタイトル
と違って「私のおしば標本」か「私のハアバリウム・
スペシメンズ」が適切であろう。この部分に牧野
の言葉「明治17年に私ははじめてヤマトグサを
土佐で採集したが、その翌年に渡辺という人がそ
の花を送ってくれたので、私は大学の久保君と
共に研究し学名を附し発表した。これによって
はじめて日本にヤマトグサ科という新しい科名を
見るに至った」が引用されている。しかし、ヤマト
グサは1889（明治22）年にイラクサ科として発
表されたのであり、これを牧野がヤマトグサ科と
したのは1894（明治22）年なので、ヤマトグサ
の発見とヤマトグサ科の新記録が混同される原
因はこの辺にあるらしい。なお、ヤマトグサ科は
APGIV 分類体系ではアカネ科に変更されて消滅
した。また、このページに MAK のヤマトグサの
標本写真があり、その標本はシンタイプ syntype
である。

本書は「まえがき」に代わって巻頭には牧野富



太郎の「あるいは草木の精かも知れん」の文章が
置かれている。その文章の一部を少し長いが、孫
引きする。「草木は私の命でありました。草木が
あって私が生き、私があって草木も世に知られた
ものが少なくないのです。草木とは何の宿縁があ
ったものか知りませんが、私はこの草木の好きな
事が私の一生を通じてとても幸福であると強く信
じています」。次いで「オニバスの幼株を首に掛
けた」牧野の1939（昭和14）年77歳の写真があ
る。実に幸せそうな牧野で、牧野の文章によく一
致していて、この素晴らしい写真をここに置いた
編集に感心した。「あとがき」に代わって『牧野
富太郎植物記2 野の花2』からの「どうかみなさん
も、植物に親しんでください。そして少しでも
多くの知識を身につけてください。それが一生を
通じ、どれほど人生を豊かにするか分かってもら
えると思います」で結ばれている。本書は植物学
の本ではなかったが、見れば分かるように編集さ
れており、牧野富太郎植物博士の人生が上手に引
き出されている。

（大橋広好 H. OHASHI）

□尾形之善：写真で見る 種子島の自然 改
訂版 86 pp. 2017. たましだ舎。¥1200+税。
ISBN978-4-9904915-0-5 C0640.